

平成25年度第3回川崎区区民会議すこやか・共に生きる部会摘録

日 時：平成25年9月24日（火）午後6時30分

場 所：川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 9名

石渡勝朗、新井トキ子、小泉忠之、知念ジョアンナ、富田順人、森脇卓郎、
深澤香織、原千代子、秦琢二

参与 0人

傍聴 0人

1 開会

(1) 事務局

- ・ 会議の公開、会議録の開示、会議の記録、広報としての写真撮影等の説明
- ・ 配付資料の確認

(2) 部長あいさつ

2 議題

(1) 報告事項

ア 今後の審議スケジュールについて（資料1）

資料1に基き、今後の審議スケジュール案について確認した。

(2) 審議事項

ア 予防接種に関わるアンケートについて

資料2-1（フリガナなし）、2-2（フリガナつき）に基き事務局から、
これまでの討議内容を踏まえた予防接種に関するアンケート調査の
調査票の案が示された。

■ 討議結果

- ・ 資料2-2のフリガナつきの調査票案を基に実施に向けて進めることを
確認した。

■ 主な意見

小泉委員 アンケートの実施はいつ頃を想定しているのか。

事務局 本日の討議の結果を持って、9月の校長会にかけ、10月配布で実施したい。

石渡部会長 対象校などは既に決定しているので、10月に実施できれば、最終報告に実施結果を含めることもできる。

森脇委員・深澤委員 資料2-1（フリガナなし）、2-2（フリガナつき）で回答欄の掲載順番が異なっているので、統一すべきだ。

富田委員 資料2-1（フリガナなし）、2-2（フリガナつき）の両方用意するのではなく、フリガナつき一本でやれると良い。

知念委員 フリガナつきでもA3版1枚に収まり、思ったほど長くならなかった。スペースにも余裕があり、見やすいと思う。

イ 子どもを地域で支える、子どもの生きる力について（資料3）

資料3に基き事務局から、これまでの討議内容を踏まえた今後の審議スケジュール、子どもを地域で支える仕組みの案が示され、討議した。

（1）子どもを地域で支える団体同士の情報共有

■ 討議結果

- 概ね資料3の提案どおりの内容、参加団体で、来年1月の開催を目途に、「子どもを地域で支える団体同士の情報共有・情報交換会」開催を目指すこととした。（市長選挙、新市長体制下の最初の議会等により12月の開催は困難）

■ 主な意見

森脇委員 地域の子育てグループなども巻き込んでどうか。区全体へ取り組みを広げていく道筋や主催など、事業設計をもっと明確にする必要がある。

石渡部会長 モデル事業として始め、ゆくゆくは区全体に拡げていきたい。

もっと身近な地域単位でというご意見もあったが、町内会レベルだと

当該地域のみという先入観が生まれてしまいそうであり、子ども文化

センターの地域規模が適当と考えた。第1回については区民会議主催で

開催し、様々な団体が顔を合わせるきっかけづくりをしたい。

事務局 第1回については、関係団体内で合同イベント等を開催している

団体を招いて、相互の交流や乗り入れができるような形を目指したい。

定着に向けては参加団体の自主運営への移行が理想であり、その道筋を

示^{しめ}していきたい。
森脇委員^{もりわきいいん} 宮前区^{みやまえく}では子育てグループ^{こそだぐるーぶ}の連絡会^{れんらくかい}がある事例^{じれい}もある。川崎区^{かわさきく}内

はどうか。
深澤委員^{ふかさわいいん} 過去^{かこ}に保健所^{ほけんじょ}が子育てグループ^{こそだぐるーぶ}の交流会^{こうりゅうかい}を仕掛^{しか}けたことがあつたが、グループ数^{ぐるーぶすう}の減少^{げんしょう}等で立ち消え^{たちき}になってしまっているのが、川崎区^{かわさきく}の現状^{げんじょう}だ。

一方^{いっぽう}でコーラス^{こーらす}や読み聞かせ^{よみきかせ}、音楽^{おんがく}などの地域^{ちいき}に捉^{とら}われないテーマ型^{てーまがた}のグループ^{ぐるーぶ}が生まれつつある。ゆくゆくは子育て関係^{こそだかんけい}やこうしたグループ^{ぐるーぶ}も加^くわっていけると良い。

秦委員^{はたいいいん} 過去^{かこ}に町内会^{ちやうないかい}の交流会^{こうりゅうかい}を同趣旨^{どうしゆし}で立ち上げようとしたことがあつたが、規模^{きぼ}が大き^{おお}すぎてなかなかまとまらなかった。今回^{こんかい}の規模^{きぼ}や構想^{こうそう}は良いと思う。

(2) 地域^{ちいき}資源^{しげん}を活用^{かつよう}した地域^{ちいき}で子ども^こと大人^{おとな}が世代間^{せだいかん}交流^{こうりゅう}できる

取り組み

■ 討議結果

・ 囲碁^{いご}・将棋^{しょうぎ}を活用^{かつよう}した世代間^{せだいかん}交流^{こうりゅう}の実現^{じつげん}に向けて、小泉委員^{こいずみいいん}を中心^{ちゆうしん}に引き続き^{ひつづ}検討^{けんとう}・働きかけ^{はたら}をすすめていくことを確認^{かくにん}した。

■ 主な意見

小泉委員^{こいずみいいん} 囲碁^{いご}・将棋^{しょうぎ}の講師^{こうし}については、既存^{きぞん}の地域^{ちいき}のサークル活動^{さーくるかつどう}の年配者^{ねんぱいしゃ}から確保^{かくほ}の目処^{めど}がついている。しかし、会場^{かいじやう}や用具^{ようぐ}、参加^{さんか}児童^{じどう}の確保^{かくほ}などの面^{めん}で不安^{ふあん}がある。クラブ活動^{くらぶかつどう}としての導入^{どうにゅう}は難しいと学校側^{がっこうがわ}から言^いわれている。

秦委員^{はたいいいん} 学校^{がっこう}への出張^{しゅつちやう}授業^{じゆぎやう}型^{がた}での実施^{じっし}はどうか。川中島^{かわなかじま}スポーツクラブ^{すぽーつくらぶ}関係者^{かんけいしゃ}によるフラッグフットボール^{ふらっくふつとぼーる}の授業^{じゆぎやう}など、先生^{せんせい}が指導^{しどう}できない内容^{ないよう}について、実施^{じっし}している事例^{じれい}がある。水曜日^{すいようび}放課後^{ほうかご}の課外^{かが}クラブ^{くらぶ}やわくわく^{わくわく}などでの導入^{どうにゅう}も考え^{かんが}えられる。講師^{こうし}の身元^{みもと}がはっきりしていれば学校側^{がっこうがわ}が積極^{せつきよく}的に受け入^うれている例^{れい}がある。

新井委員^{あらいいん} 学校^{がっこう}で実施^{じっし}するのか、地域^{ちいき}で実施^{じっし}するのか。将棋盤^{しょうぎばん}、碁盤^{ごばん}などの用具^{ようぐ}はある程度^{ていど}数^{かず}が必要^{ひつよう}だ。

原委員^{はらいいいん} 中学生^{ちゆうがくせい}は部活動^{ぶかつどう}や定期^{ていき}テスト、合唱^{がっしょう}コンクール^{こんくーる}や体育祭^{たいいくさい}などの行事^{ぎやうじ}で忙^{いそ}しい。小学校^{しょうがっこう}の方が入りやす^{はい}いと思う。

小泉委員^{こいずみいいん} 用具^{ようぐ}は私^{わたし}や協力者^{きやうりやくしゃ}の私物^{しぶつ}などを貸与^{たいよ}することも可能^{かのう}と思うが、

それほど数はない。最初から大風呂敷を広げずに、できること、できる地域から始めたい。

富田委員 野球、羽根突きなども最近では地域のチーム数が減ってきている。

今の子どもがどのような活動に興味があるのか、私にはわからない。

石渡部会長 時間をかけて取り組んでいく必要があるようだ。

ウ 外国人市民も住みやすいまちづくりについて（資料4）

資料4-1、4-2、4-3に基き事務局からこれまでの検討経緯、課題解決策の案が示され、意見交換した。

（1）多言語に対応した窓口における問答集（Q & A）の作成

■ 討議結果

- 多言語に対応した窓口における問答集について、案のとおり6ヶ国語で作成を進める。

■ 主な意見

石渡部会長 6ヶ国語での実施はとても良い方向性だ。

原委員 一部の窓口では既に資料が多言語化されている。フィリピンの方の住民登録を手伝った際にタガログ語の案内資料があった。

事務局 通常から対応事例の多い窓口ではできている事例もあるが、今回目指すのは更に一歩進めた、例えば子どもの入学や保健などの窓口で、個別のケースにも対応できるような多言語資料の作成を進めたいと考えている。

（2）外国人市民を対象とした調査

■ 討議結果

- 調査の実施方法、内容（調査項目）等について、原委員と事務局でたき台案の作成を進め、次回部会で討議することとした。

■ 主な意見

原委員 年度内の調査の本格実施は難しいと思うが、今後に向けたプランづくりや予備調査などできることを進めたい。市民・子ども局で全市の外国人市民を対象とした無作為抽出調査の計画があり、青丘社の代表や慶応大学の塩原教授などが参加する委員会で検討が進められている。市民意識や生活調査などかなり広い範囲での調査が検討されているようだが、ここに部会での討議内容を調査項目として提案でき

ないか。

事務局 調査項目が未定ということであれば、働きかけは可能だ。しかし

どう受け止めてもらえるかは委員会次第となる。

森脇委員 青丘社が行う健康診断(2014年3月)の場では、情報入手をテーマに予備調査を行ってはどうか。

エ 区民会議フォーラムについて(資料5)

資料5に基き事務局から今年度の区民会議フォーラムについての企画案が示され、意見交換した。

■ 討議結果

- 日時・会場等は企画案(11月23日・教育文化会館大会議室)に基いて進める。
- 当日午後1時前後にフォーラムを開始後、一時間程度で区民会議の経緯と提案内容の発表を行う。パワーポイント等効果的に使ってできるだけわかりやすく説明する。
- 区民会議発表の後、1時間～1時間半程度、講演、外国人市民を対象とした防災訓練についての説明、囲碁・将棋を用いた世代交流、コミュニティバス試走体験のプログラムに分かれた体験プログラムを行い、参加者は各自の興味関心に応じて参加する形式とする。
- 講演はフィジカルブレインクリエイション代表の本山輝幸氏による「脳と体を若返らせるためには」をテーマとした講演を第一候補とする。もう一方の部会、全体会で図った上で、交渉に入る。
- 企画の詳細や広報、動員方法等について、今後調整、準備を進める。
- 事前広報としては、市政だより11月1日号に掲載する他、各団体の会合等で配れるようチラシを事前作成する。

■ 主な意見

原委員 避難訓練の計画内容の説明だけで外国人市民を集めるのは難しいと思う。むしろ支援ネットワークや団体の方々に来ていただいて、区の担当者や訓練の内容について、協議できるような場にできれば良いと思う。

知念委員 一方的な情報提供だけでなく、来場した区民の意見を吸い上げる場を必ず持つことが重要だ。区民会議からの発表はでき

だけ簡潔に、わかりやすくしたい。
 石渡部会長 区民会議の発表はパワーポイント等も効果的に使いたい。
 新井委員 フィジカルブレインクリエイション代表の本山輝幸氏による
 「脳と体を若返らせるためには」をテーマとした講演を推薦する。
 社協の役員研究会で講演いただいたが、体も動かしながら楽しめる
 内容で非常に好評だった。
 知念委員・新井委員 各企画の会場が近いのは良いが、各企画に集中で
 きる環境の確保、特に講師の方に失礼の無いように配置する必要があ
 る。
 石渡部会長・小泉委員 動員については、各団体へ人数など具体的な提示
 に基づく依頼をしても良いのではないかと。町内会や民協などは地区
 単位で動員をお願いすれば対応可能だろう。
 富田委員 参加申込書つきのちらしを動員の人数配布するなどしては
 どうか。
 深澤委員 動員のために、ちらしは早めの作成・配布をお願いしたい。事前
 の各組織の会合で配れるようにする。

3 へいかい 閉会

いじょう
(以上)